



令和5年度 赤野保育所 園評価最終報告

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価
4月	○ 園経営計画の作成 ○ 本年度の重点目標の設定（評価計画） ○ 園評価項目・指標の設定 ○ 職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解 ○ 保護者への園評価の説明
8月	○ 中間報告の実施（職員の自己評価・園の自己評価）
9月	○ 設置者への中間評価の報告・改善策の検討
11月	○ 保護者アンケートの実施（11月22日）
1月	○ アンケートの集計・分析
2月	○ 最終評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価） ○ 保護者・設置者への報告 ○ 改善策の検討

2 評価結果

○ 総括的な自己評価結果について

〈成果〉

① 保育・教育の充実に関する項目

年間を通して、色々な人に読み聞かせをしてもらうことで、沢山の絵本に触れ合うことができた。読みきかせの大切さを伝えるため、保護者と一緒に研修を受けて、絵本を通して親子の触れ合いを学んだ。

指導計画の立て方や、記録の取り方を学習したことで、振り返りを行う中で保育の課題を見つけ次へ繋げることができた。

② 職員の育成・資質向上や運営に関する項目

研修会に参加し、学びを職員間で共有して日々の保育に活かしていった。学習会を行い、自分の保育を語り意見を出し合う中で保育を振り返り、手立てを見つけていった。それぞれの役割を遂行し、子どもの変容に繋げていった。

③ 地域に開かれた園づくりに関する項目

日頃から保護者と子どもを中心とした話をしている。お便り等で子どもの成長や保育内容を発信して信頼関係を築いてきた。学校や地域の方とも積極的に交流し、日々の保育での子どもの姿を見てもらい共に連携して子育てができた。

〈課題・主な改善策〉

- ① 保育のねらいをおさえ、組み立て方や今後の保育に活かすことができるように、手立てを学習していく。
- ② 職員の資質向上を図るために、研修会に積極的に参加する。
- ③ 今年度の取り組みの成果や保護者アンケートの結果を参考にして、子どもにとってより良い保育所作りをしていく。来年度は、子ども的人数が減少する中での保育内容の工夫を考えていく。

令和 5年度

園評価

(赤野保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	身近な環境と関わる中で豊かな心と丈夫な身体を育てる	〔保育展開〕 絵本に興味を持ち心豊かに育つように読書環境を整える	4 関係機関と協力し、色々な絵本に興味を持つようにする	3.7	4 子ども達が絵本の世界で遊び楽しむ事ができる	3	・色々な人に絵本を読んでもらうことで沢山の絵本に触れることができた。読み聞かせの大切さを保護者と一緒に研修して聞く事ができた。絵本の貸し出しをする中で、家庭でも絵本に触れる機会が増え、親子のコミュニケーションが広がってきた様に思う。
		3 絵本の紹介を行い家庭で読める取り組みをする	3 自分で絵本を読もうとする				
2 絵本に興味を持てるように環境を整える	2 自らが選んだ絵本を読んでもらいたがる						
1 1日に1回以上読み聞かせを行う	1 絵本を読んでもらう事を喜ぶ						
		〔指導計画〕 保育の記録と振り返りを行い保育に生かす	4 記録をもとに職員会で報告、情報提供をし保育に生かす	3.2	4 記録と振り返りができ保育に生かした職員 90%以上	3	・記録の取り方や記載の仕方やねらいを保育者がおさえることができていなかった。今後も学習し保育に活かせるように学んでいく。 ・巡回相談に向けて個別の指導計画を作成した。子どもの姿を共有し、必要な記録を取り、次へ向かう姿も話をする事ができた。
3 気が付いた事を各自が記録する	3 70%以上						
2 記録の取り方を工夫する	2 50%以上						
1 振り返りや記録を取る時間を確保する	1 50%未満						
◆職員の育成・資質向上や運営	共有課題に向かう職員の協力体制づくり	〔資質向上の取り組み〕 学習会を開催をする	4 資質向上のための学習会月2回以上	3	4 学習会を行うことで自分の保育を語り、悩みなどを出すことで子どもの実情につがった	3	・学習会では、意見を出し合い保育を振り返りながら、ねらいを明確にし子どもの実情に繋げていった。 ・研修会に参加して、学びを伝えあい共有していった。学んだことを振り返りながら今後の保育に繋げていった。
		3 月1回程度	3 行事に向かう取り組みを話し合うことで園の行事とクラスの遊びの取り組みを考えることができた				
2 2カ月に1回以上	2 子ども達の発達を学習する						
1 学期に1回以上	1 学習した内容を保育の実践に生かす						
		〔組織運営〕 子どもの様子や保育構成・分掌事務についての話し合いをする	4 積極的に意見を出し合い、保育構成や業務について話し合いを行う	3.2	4 報告・連絡・相談を意識的にやりい園務を遂行できた	3	・職員会や学習会で、職員同士が思いを共有し、保育へと繋げる事が出来ている。 ・個々の担当業務については不十分な所が見られるので、職員同士で声を掛け合いながら業務を行っていく。 ・日々の保育の中でも、クラスの様子や意見を交換して保育内容を充実させてきた。
3 職員同士が意見を出し合い業務を確認する事で、自らの業務に責任をもって保育を行う	3 保育や園務分掌の中で他職員と協力する事ができた						
2 月1回の話し合いの他に必要に応じて話し合いを行う	2 自分の思いを職員に伝える事ができた						
1 月1回以上職員会で話し合いを行う	1 職員同士話し合いを行うことができた						
◎地域に開かれた園づくり	保護者や地域と連携し、信頼される保育所作り	〔保護者との連携〕 子どもの育ちや保育への理解を深める機会をつくる	4 必要に応じて、家庭訪問や面談を行う	3	4 面談や訪問、学習会などを行い、保護者の思いに寄り添い対応できた	2.6	・保育所での様子を丁寧に伝えながら、家庭での様子も含め子どもを中心とした話をすることで信頼関係が築かれてきた。クラス便りに返信欄を設けることで、家での子どもの様子や、保護者の悩みを知る事ができた。
		3 年齢の発達や子どもの個性について、保護者と話し合う	3 親の思いに寄り添い話をすることができた				
2 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける	2 子どもの様子を共有する事ができた						
1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 登降所時に子どもの様子を伝える事ができた						
		〔情報提供〕 保育に関する様々な情報発信に取り組む	4 家庭と地域に保育の様子を知らせ保育の共有をしていく	3.2	4 保護者や地域に保育の様子を発信していく事で保育に理解を示し、子育てについて共有してもらう事ができた	3	・日々の子どもの姿や発達・友達との関わり等を便りや登降所時に伝え保育を理解してもらえるようにしてきた。学校や地域と保育所での姿を見てもらい子どもの姿を共有し連携をして子育てができた。 ・子どもの活動を写真や文字などで、視覚的に記録し、保育内容が伝わるようにして情報を発信した。
3 お便りや話で家庭と地域に保育の様子を知らせていく	3 保護者や地域に保育の様子を伝える事で、子ども達の成長を理解してもらう事ができた						
2 行事の取り組みをお便りや登降所時に家庭に伝える	2 保育の様子を家庭に伝え保育の取り組みと子どもの気持ちに共感してもらう事ができた						
1 お便りやノートで保育の様子を知らせていく	1 お便りやノートで保育の様子を知らせる事ができた						